

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400877
法人名	株式会社グループホーム
事業所名	グループホーム浄心の杜
所在地	名古屋市西区上名古屋三丁目13番3号
自己評価作成日	評価結果市町村受理日 平成22年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16
訪問調査日	平成21年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの思いを大切に、開放的な空間の中で一緒にテレビを観る、話をし笑い合う、ゆったりと過ごす…そんな雰囲気作りを大切にしています。
可能な限り、散歩にでかけたり、近所の喫茶店にいたり、個別レクリエーションで外出をしていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4階建ての2・3階でグループホームを行っている。周りには小学校や公園、喫茶店が何軒もあり日々の散歩で出かけている。利用者が出来る限り、家に居た時のようにゆったりと過ごせるよう、居室には個々の馴染みの家具や思い出の物を置き、又毎日の食事でも利用者と一緒に準備・料理をしている。行事食では、利用者の好みを聞き、焼肉・お好み焼き・パーティーを開いたり、誕生日には手作りケーキと一緒に作りお祝い会をする等、みんなが楽しめる生活支援に努めている。毎月1回、一人ひとりのホームでの過ごし方を写真付きの便りにし、各家族へ定期的に情報提供を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.尊厳・奉仕・思いやりの心を大切にする。2.笑顔あふれる空間を創造する。3.お客様の生活の安心・満足・充実を図る。4.仕事の安心・満足・充実を図る。5.地域間、事業所間の充実を図る。6.経営の安定・拡大を図る。玄関に貼りだし来客にも分かるようにしている。	法人内で共同で決めた運営理念を各階の玄関に掲示してある。スタッフがその理念を現場のケアに実践していけるよう日々努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流は、近所の喫茶店に行く程度で、ほとんど無く夏の盆踊り大会に参加するのみ。	毎日出かける散歩先の公園では、近所の方に積極的に挨拶をするよう心掛けている。又、自治会が主催する夏祭りへの参加や、近所の喫茶店へは月に2～3回程出かけている。	自治会・小中学校・消防団等との交流の機会がほとんどない為、今後のはたらきかけに期待する。又、以前まで行っていた学生のサマーボランティア等の受け入れの継続もして欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解に努めた働きかけを、地域住民を対象には行っていないが、運営推進会議を通して、認知症についてや介護の不安等についての意見交換は行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者に対するサービスの実際、事業所での取り組み等を報告している。又、今後のサービスが向上できるように意見交換を行うよう努めている。	現在のところ、6ヶ月に1回の実施状況。家族へは事前に会議へのお知らせを行い、参加を呼び掛けている。参加できない家族へは来所時に報告している。	年間の会議日程を具体的に決め、2カ月に1回定期的に行いたい。又参加メンバーも家族のみではなく、地域住民・市町村職員の代表にも積極的に声かけをし、ホームの運営向上を図りたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスに対しての疑問や相談にも応じていただいているが、事業所の実情やサービスの取り組み等を、積極的に伝えるような取り組みまでは至っていない。	年に数回、生活保護担当者・ケースワーカーが来所する。その際に、利用者の問題点等を相談し、助言や指導を受けている。	認定更新やその他の事務手続き等の機会に、区の担当者やケースワーカーとの連携を望む。又、日常的に情報の提供や共有が行える環境作りに努めて欲しい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、建物の構造状、死角があり開放まで実施できていない。又、身体拘束をしないケアは、行っており、申し送り等で意識統一を図っている。	各階の玄関はオートロックで鍵かけしているが、家族へは説明を行い承諾を得ている。また利用者が“外へ出たい”という希望や様子が見受けられた際は、その都度スタッフで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	互いに意識を持ち、言葉遣いなども配慮した上で声かけをしている。また虐待ではないかと思われる声かけや、行動については個別に注意を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ場を設け、どのような仕組みで成り立っているか、また家族に制度の仕組みなどを話し、勧めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、規程等は分かりやすく分け、契約前に自宅におとずれ、契約内容の説明をおこなう。又、疑問や不安点があれば、随時受け付け相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、訪問時や運営推進会議等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りには心掛けている。利用者やご家族に出された意見、要望等は申し送りやミーティング等で話し合い、反映している。	毎月1回、利用者のホームでの過ごし方や健康状態を写真付きのお便りにし、家族へ近状報告をお知らせしている。又、生活や身体上に問題があった際は、その都度連絡をし解決に努めている。	会議に参加できない、又面会が少ない家族との情報交換ができるよう、意見箱や連絡ノートの活用をして欲しい。要望や意見の収集に努めたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や勉強会、面談等を通して、意見や提案ができる機会を作っている。又、いつでも話ができるよう問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	月に1回の会議を設け、各職員から業務体制や待遇面等の意見を聞くようにしている。又、現場における技術面も含めた勉強会も定期的に行い、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を行い、職員が向上心を持って働けるようにしている。又、職員の資格取得に向けた支援も行なっている。管理者は職員の疲労や思い、人間関係等をいつでも、上司に相談・報告でき、会社全体で考える環境ができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では定期的な勉強会を行い、スキルアップの場を設けている。又、外部研修の情報を職員に持ちかけ、受講する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との勉強会(食事委員会、教育委員会)を開き、互いの意見交換、勉強の場として提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では必ず本人とゆっくり話し時間を取り、これまでの生活状態や求めている事を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の求めていることや不安なことなどを、ゆっくり聞く時間を作り、事業所ではどのような対応ができるのか、相談に応じている。又、今後の介護計画につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族の思いや状況等を確認し、必要としている支援を提案している。内容によっては他のサービス利用の情報も提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に部屋でゆっくり話す事で、本人の思いや苦しみ、不安を分かち合うことも多く、お互いが相談しやすい環境を作っている。又、利用者から力をいただく事も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、日常生活上の変化をご家族に伝え、情報を共有しており、協力関係ができるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、入居している方に、友人、知人の面会が無く、自宅での生活での友人関係がわからず。馴染みの場所は、家族が馴染みの場所に連れていてくれている。	入居前のデイサービス利用の際に親しくなった人の話は聞いているがそれ以外の馴染みの人については聞き出せていない。馴染みの場所へは家族が連れて行っており職員の外出支援はない。	入居前の友人関係を不明のままにせず、馴染みの人との関係継続の支援を検をして欲しい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩などを通じて利用者同士と一緒に過ごす時間が多くある。又、利用者同士の関係がうまくいくように、会話の中に職員と一緒に入り調整役となって支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから継続的な関わりを持つような働きかけはしていないが、契約終了後もご家族から電話をいただけたりする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の嗜好を聞いたりして、食事の献立として出したりしている。意思疎通が困難な方でも、表情やしぐさを観察し、理解に努める。	入浴時や外出時に職員が1対1対応する際、思いや意向を把握するように努めている。またフロアーミーティングや会議で提案し、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や生活環境を聞き出し、把握に努めている。趣味(好きな事)など、できるかぎり継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることを奪わないよう、利用者のADLに合わせた支援を心がけている。生活活動への自立支援や、役割作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いや希望を聞き、反映するように努めている。入浴や食事など、時間や形が決まっている事への要望に応えるのは難しいが、できるかぎり近いものとし、提供できるように努めている。	利用者・家族等は「入院にならない・悪化させない・現状維持」を望んでおり、それをふまえて介護計画を作成している。毎日評価を行い、会議やケアカンファレンスで話し合っている。	介護計画書の日付に古いものがあったが、変更がない場合には更新の日付を記入して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目、事柄にわけ、バイタル、食事、日々の様子などを細かく記載し、個別記録として記載している。またモニタリングも同様に観察記録として残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制をとっており、利用者の健康管理に努めている。又、緊急のご家族との外出や外泊にも臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行なっている祭りなどに参加しているが、地域資源をすべてしている訳でない。それ以外で、近所の喫茶店に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院の他、利用者、ご家族希望に応じて対応している。協力病院以外への受診や通院に関して、基本的にはご家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行するようにしている。	隔週で協力医の往診を受けている。また歯科医や精神科医の往診も希望により受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を設備しており、24時間体制で健康管理や状態変化等の報告、相談に応じていただける。医療に関する不安や疑問点なども気軽に相談することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に面会を行い、利用者の状況把握に努めており、又、ご家族との情報交換を行なっている。退院後の対応や注意点などを相談、話し合える場を作れるよう、担当医師等に働きかけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針の同意をご家族からいただいており、事業所が対応し得るケアについての説明を行なっている。又、本人やご家族の意向を踏まえ、医師と連携をとり、随時連絡が取れるようにしている。	重度化・終末期に該当する利用者がある場合には早い段階から協力医同席で家族等との話し合いを持ち対応している。勉強会を実施し、職員との方針の共有ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で、心肺蘇生術など学んでいる。又、事故発生対応マニュアルを現在作成進行中。カンファレンスでは、利用者の状態変化に応じて、対応方法を指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、全職員が対応できるように努めている。特に夜間の災害時対応は重要なので、定期的に訓練を行いたい。現在、災害対応マニュアルを作成中。	避難訓練の実施は1年以上ない。作成中のマニュアルは法人として共通のものである。避難経路図や緊急連絡網はある。消火器の設置、浴槽に水を常時ためておくように努めたり、緊急時のトイレ用の水を保管している。	ホーム独自のマニュアル作成と定期的な訓練の実施を望む。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の意思や誇りを損なわないよう、さりげなく声かけやケアをするよう心がけている。声かけや対応等で疑問や意見がある場合は、会議や申し送りを通じて話し合い、ケアの方向性を決めている。	職員は利用者を人生の先輩として接し適切な対応を心掛けている。万が一適切ではない行動・言動があった場合には、管理者が個別対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けるような支援をせず、利用者の思いや希望を聞き、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや気分に応じて支援ができるよう心がけてはいるが、本人の好きな時に外出支援するなど、人員不足や業務の関係上希望にそえないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替など基本的にできる方には、自己にて洋服を選んで着ていただく。毎月理容師が訪れ、本人の好みに合わせてカットやパーマをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは肉の日・魚の日など決めているが、利用者の好みに合わせたり、季節の食事や行事に合わせて臨機応変に変更している。	利用者の好みを取り入れた献立にしたり、2～3ヵ月に1度はお好み焼きや焼肉等でパーティーを実施している。誕生日のケーキと一緒に作ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録、データとして残し、把握している。水分量などが低下している利用者には嗜好を取り入れたりと工夫している。又、変化があれば往診で相談しており、定期的な血液検査も行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ見守りを行い、出来ない方には毎食後のケアを行なっている。又、週に1回口腔ケアサービスを利用している入居者もあり、口腔状態の確認含め指導をいただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンや失禁状況の把握に努め、トイレの声かけや誘導を行なっている。トイレでの排泄を大切に、パット類も本人に合わせて検討している。	排泄パターンの把握をしトイレ誘導を行うなどして、できるだけオムツにしない支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるかぎり薬に頼らず自然排便ができるよう、水分量の把握、飲食類の工夫に努めている。又、散歩の他、体を動かす運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週2回以上となっており、1対1の対応を行なっている。入浴ができない日も、必要に応じて清拭や足浴を行なっている。	週3回の入浴としており、何らかの都合で入浴できない場合でも2回は入浴できるように支援している。また季節に応じて入浴剤を換え入浴を楽しむ支援をしている。拒否する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、夜間心地よく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲んでいる薬の内容を個人事にカルテに入っており、全職員が把握、確認ができるように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションや日々の動きなどで得意分野を見つけ、お願いできそうな仕事を頼み、必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は毎日散歩をするなど、戸外に出るようにしている。普段行けないような場所に行く場合は、事前に下見やスケジュールを作り、当日事故やトラブルがないよう留意している。	すぐ近くに公園があり、散歩で毎日出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の所持はご遠慮していたいているが、希望がありご自分で管理できる方に関しては、所持されている。お金の事が原因で不安定になる場合は、職員がうまくフォローし解決している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用も自由にでき、ご家族に対して電話希望があった場合も、事前にご家族と話し合い対応している。年賀状なども希望に応じて出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は、基本、明るい空間を心がけている、又、室内温度や臭いにも留意している。	リビングにはソファが置かれ寛ぐことができる。日めくりが掛けてあったり、利用者の習字や写真の掲示がある。畳スペースがあるが、利用者が上がり寛ぐことがないため一部が荷物置き場となっている。	畳スペースに置かれている荷物の整理を早急に実施して欲しい。また畳スペースの有効な利用を検討して欲しい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを含め座る所を多く作り、自由に移動して、好きな時に好きな事ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品などを持ってきていただいている。又、ベットや防災カーテン等は施設で用意している。	仏壇や写真、馴染みの家具が置かれ、それぞれ居心地よく過ごせる工夫がされている。利用者は退去時に元に戻せば壁紙を換えることも手すり等を設置することも可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、手摺の増設などを実施する他、ベットからトイレまで安全に移動できるよう、利用者と相談のし、配置を工夫する。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	①自治会で毎年行われる夏祭りへの参加や日々の散歩で交流を図っている。 ・決まった場所への散歩とお出かけで、近隣の方とのふれあいが画一的である。 ・自治会・消防団・小、中学校との交流の場がほとんどない。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	・6カ月に1回の開催状況 ・市町村、地域住民の代表者への呼びかけもなく行われている。 ・参加者は家族と事業者のみの実施で地域との情報交換・共有の場がない ・不参加の家族へ、会議の報告や議事録の郵送等がされていない。	×
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	・市町村が主催している、介護関係の講習会に参加しているが資料がなく、現場で活用されているか確認できず。 ・運営推進会議への声かけもなく、情報交換・共有の場がない ・事業者と区の担当者・ケースワーカーとの連携がほとんどされていない。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	①毎月一回、各家族に利用者の生活状況のお便りを定期的に送っている。 ②利用者における生活や身体状況で問題があった際はその都度解決に努めている	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	×
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総 合 評 価		×

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

各スタッフが利用者の生活支援向上のために努めているが、地域や市町村など外との関わりりがとても少なく、情報交換・共有の場がないため閉鎖的な面が見受けられた。ホーム内は和やかな雰囲気作りがされているが、もっと地域に開かれた事業所を目指してもらいたい。

1 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の
実践状況（外部評価）が適切であること。

2 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の
取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確 認 事 項
2. 事業所と地域とのつきあい	（例示） ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	（例示） ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	（例示） ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	（例示） ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

（注）要件の確認については、地域包括支援センター外部評価機関の外部評価員が事実確認
を行う。

